

午前10時17分再開

○議長（浅尾静二君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、12番富田栄一議員の質問を許可します。12番富田栄一議員。

（12番富田栄一君登壇）

○12番（富田栄一君） 先日から郵便による朝倉市財政見通しからのアンケート集計、御協力ありがとうございました。議会で何ち言いよるかわからんもんと私の反省するところもあります。その中で返ってきたはがき、その8割以上にしっかりと御意見を書いていたいただきました。さらにはお手紙までいただいています。朝倉市を思い一生懸命生きている市民の姿が目に見えなくてまいります。

アンケートの集計結果です。郵送数2万1,310、返信総数1,362、6.39%の割合です。先ほど申しました意見については、総合政策について460件、財政について54件、庁舎について198件、体育施設について103件などなど、合わせて1,321件の御意見をいただきました。庁舎・総合体育施設等建設事業について、「見直したほうがいい」という意見は1,049通、77.02%、「今のまま進める」142、10.43%、「わからない」131、9.62%、無回答40通でした。庁舎・駅・マンション併用施設について、「挑戦すべきだ」678通、49.78%、「今のままでよい」528通、38.7%、無回答156通でした。

次に、秋月校区にお住まいの方だけのアンケートでしたが、秋月小中学校一貫教育について、「見直しが必要」288通、返信総数は、秋月地区では373通でございましたので割合は77.21%。「このままの計画でよい」63通、16.89%、「わからない」15通、4.02%、無回答7通でした。平成28年6月2日に議会に提出された秋月小中一貫教育を施設分離型で実施する旨の陳情書、対象保護者126世帯中93世帯の署名が来ていますが、それを大きく上回る数字が出てまいっております。本当にアンケートの御協力ありがとうございました。

また、質問に入る前に、12月議会一般質問で間違った数字を使ってしまいました。議場にておわび申し上げます。朝倉市公共施設等総合管理計画について、期間は本年度・平成28年度から平成67年度まででした。公共施設の1年当たりの整備費は30億5,000万円、道路・橋梁・上下水道合わせて1年当たりの整備費は23億7,000万円、毎年54億2,000万円が平成67年度まで必要ということでした。このときの答弁につきましては大きく影響していないと考えております。きょう、このことについては、その後を聞いてまいりますので、どうぞよろしく申し上げます。大事な議会を失礼いたしました。しっかり反省して、また、市民からののはがきでも反省しました。批判だけの議員なんか無報酬でよい。議場に届けることとありました。

先日、山本地方創生大臣のセミナーに行つてまいりました。「愚痴はこぼすな、ただいまこれから再建に立ち上がれ」秋月郷土館にも多大な御寄附をいただいた出光佐三氏の言葉を引用されました。私は思いました。国は頑張るところにしか手を差し伸べません。大臣は、数年後に、ある市町村から要望があったら、国から何も活性化案をしていただいて

いないと問われたら「市長が悪い」と言うよ。私はそう聞こえるくらいの強い言葉で講演されました。朝倉市、今が頑張りどきなんです。市民の皆様、熱い思いの方々とともに頑張るときだと思います。はがきの批判だけ、その裏側の意味するところ、何の活性化案も出さない議員ではいかんと思います。

また、はがき1枚で議員活動のつもりかと問われていますが、私ははがきの1枚1枚から市民の熱い思いと、苦しいながらも御高齢にもかかわらず力いっぱい生活をして、また、親の介護をしていらっしゃるすばらしい市民の方との心の触れ合いがありました。朝倉市を真剣に思っていると思います。主権者は誰でしょう。私たち議員ではありません。主権は市民にあります。ただいまこれから市民の声とともに朝倉市政を聞いていきます。

(12番富田栄一君降壇)

○議長(浅尾静二君) 12番富田栄一議員。

○12番(富田栄一君) では、まず施政方針について、2つあわせてお尋ねいたします。

1つは、10年後の朝倉市はどんなまちかということです。

2期目の総仕上げの重要な年度として、日本一のふるさと朝倉づくり、親と子と孫と一緒に暮らす朝倉市づくりのさらなる深まりを目指し、市民の負託に応える市政運営をしていくとありました。また、人口減少を克服し、魅力ある地域社会を創造していく総合戦略を6本の柱で地方創生を推し進めるともあります。その目標としている10年後の朝倉市はどんなまちなのでしょうか。

はがきでの市民の意見に、「三世代と一緒に暮らす実現のためのプログラムが示されていない」「今現在どこまでできていて、今何ができていないのかわからない」。また、「財政見通しが厳しい中、将来に向けての計画をわかりやすく市民に知らせていただきたい」「10年後の朝倉市像やそのためのプロセスを聞きたい」とありました。市民の声にどうかお答えいただきたいと思います。(発言する者あり)あわせてごめんなさい。もう一つです。あわせて言います。

2番目、新・杷木小学校に万全の準備とは、杷木地域新設小学校建設準備委員会で課題となっている市長の3つの約束のことでしょうか。平成26年12月議会から、朝倉市議会は、広辞苑の意味とは違う言葉が使われるようになっております。そのような議会は私は十分承知しておりますが、わかりやすく、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。質問にお答えください。

○議長(浅尾静二君) 総務部長。

○総務部長(鶴田 浩君) まず、10年後の朝倉市ということでございます。10年後を見てみますと、朝倉市の大きな出来事といたしまして、合併特例債の期限が終わると。それから、3ダムが完成しておりますですね。それから下水道についても完了しておると。国道322号のクランクについても、まあ整備が終わっているかどうかはわかりませんが、進んでおるだろうというようなことが言えます。

こういう中、10年後を見てみますと、合併特例債の実施期間が終わりまして、庁舎建設等の大型事業は終了しておるところでございます。322のクランク改修や駅前周辺整備が進んでいる時期と。それから、平成37年度完了予定の流域下水道等の道路、下水道等のインフラ整備も充実しておるといふふうなことが見えます。それから、居住区域の誘導とか都市機能の集積、公共交通と連携したまちづくりなど、快適で住みよいまちづくりが進んでおるだろうというふうに思います。

また、市民が希望する合計特殊出生率1.86を目指しまして、多様な生き方を尊重しながら、若い世代が結婚、出産、子育てしやすい環境づくりに力を入れていくということで、親と子と孫と一緒に暮らす朝倉市というものが達成されつつあると。朝倉市人口ビジョンに示す人口展望のように人口の減少カーブが緩やかになっていると、そういった状況を目指していきたいというふうな思っておるところでございます。以上です。

○議長（浅尾静二君） 教育部長。

○教育部長（秋穂修實君） 2点目のお尋ねは、施政方針の万全の準備という御質問ですが、これは杷木地域新設小学校建設準備委員会の協議結果及び要望書に対する回答といたしまして、平成26年10月27日付で示したものの内容のことでございます。この中には3つございまして、1つ目が安全面の確保について、それから2つ目が整備面積の確保について、3つ目が杷木球場についての対応ということでございます。

詳しく申しますと、安全面の確保につきましては、具体的には、新設小学校の候補地の北側の急傾斜地、この対策のことですが、これは建設課を窓口としまして県事業として朝倉県土整備事務所で対策を進めていただいております。これにつきましては、平成28年度においては現況地形測量、地質調査、設計業務に取り組んでいただいているということでございます。今後につきましては、国との調整を進めていただきながら、この急傾斜地崩壊危険区域の指定の作業に進むという予定になっております。

それから、2つ目に整備面積の確保についてですが、杷木地域新設小学校建設準備委員会の学校運営教育計画検討部会で、その具体的な検討がなされております。学校現場の意向を踏まえ、先ほどの急傾斜地対策事業の進捗状況とあわせながら、状況を見ながら適切な時期に対応を行うということにしております。

それから、3つ目の杷木球場についてですが、29年度にトイレの水洗化に伴う改築、それからバックネット整備等を計画しております。このほかには松末、志波小学校の複式学級解消のための非常勤講師の配置、それから、地区主催の閉校式に伴う助成等も行う予定としております。以上です。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） ありがとうございます。施政方針なので市長からの答弁があるのかなと思っておりました。3つのダムがあって、きれいな水、それから環境のいい朝倉、三世代と一緒に暮らせる、そのためには、この自然と歴史あふれるまちから福岡都市圏へ

交通——通勤、通学ができるために交通アクセスをよくしていくんだ、昨年の施政方針にもありましたけども、博多駅直通列車事業に取り組んでおると。住環境と市の玄関とも言える甘木駅前開発事業を行っておるんだと。それによって目指すものは、そしてその現況はどうであるという言葉が、お話しされてくるのかなと思っておりましたが、市長の心にはそういうところがあつての部長答弁なのかなと思っております。

2番目に移らせていただきますが、朝倉教育の礎は秋月教育にあると先ほども申しました。市議会議員として朝倉市全世帯に郵便によるアンケート調査、秋月にお住まいの皆様へとして、秋月校区の通信数は373通——ごめんなさい、返信の数は373通です。秋月小中の一貫教育について、「見直しが必要」288通、「このままの計画でいく」63通、「わからない」15通、無回答7通でした。この市民の意見に対してどう応えていこうと考えていらっしゃいますか。

○議長（浅尾静二君） 教育部長。

○教育部長（秋穂修實君） さまざまな意見等の反映についてということだと思いますが、現在、地元意見の集約につきましては、3地区のコミュニティ協議会会長、区会長会会長、青少年育成補導協議会代表、それから秋月小中学校のPTA会長・副会長、それから秋月小中学校校長、地元有識者で構成されております、この秋月中学校区小中一貫校建設協議会におきまして協議をしております。意見の反映を行うとともに、適時関係者にも説明会を開催し、御理解をいただけるよう努めているところでございます。

直近で申しますと、先月の2月25、26の土日に、秋月小学校、中学校の保護者や今後就学が予定されていますお子さんの保護者の方々を対象に説明会も行っております。

なお、説明会の機会につきましては、今後とも適時用意をしていこうと考えております。こうした説明会の中で出された御意見につきましては、今後とも真摯にお答えし、また、秋月小中一貫校の考え方、計画に反映させていただけるものというふうに思っております。以上です。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 意見の反映、真摯に受けとめていくということを本当にありがたいと思っておりますが、しかし、この数字から見てですね、何かもう一度考えることがあるのではないかなと私は感じております。

議会に出された保護者からの署名93の数字を、この数字は大きく上回っております。アンケートでなくても教育委員会は保護者、地域の方の意見を聞くという今方向も見ていただきました。が、しかし、市民の声としては、「地元で何年も話し合いをしてきているんだ」という御意見もありました。が、しかし、別の御意見としては、「説明会は十分行っているというが違うんだ」「わからないんだ」「伝わっていない」「余りにも強引である」と。私は、なぜ理解するまで聞けないのか、反省するところがあるのではないかなと思いました。

その中に20通のはがきがありました。「地域の嫌がらせがある」。自由に意見ができていないのではないかと思っております。学校をつくることにおいて、保護者、地域の方々が分かれること、家庭において、おじいちゃん、おばあちゃん、そして若夫婦が意見が分かれることは避けなければいけない大事なことであると思っております。いい学校をつくってもいじめがあっては何もなりません。いじめの定義は、いじめられていると感じたらいじめであると私は認識しております。教育委員会の持っているノウハウで嫌がらせを感じないように対応策をしていくことが必要ではないでしょうか。意見の1つに「住民が分裂することは本末転倒である。子どものことを第一に考えなさい。円満解決がそれではないか」という御意見もいただいております。教育委員会の姿勢をお願いします。

○議長（浅尾静二君） 教育部長。

○教育部長（秋穂修實君） 今いただいたアンケートの中の御意見というのは私ども理解してませんが、そういう御意見があるんだなというのは今わかりました。

また、今説明会の中でもやっぱり反対されてる方というのは確かにいらっしゃいます。が、今回の小中一貫校となる義務教育学校では、上秋月、秋月、安川の3地区のこれまでのコミュニティ協議会の長年の要望事項であったということですね。また、それに対してようやくその要望に応えることができた事業であるというふうな認識のもとに、教育委員会としましては、一貫校のモデル教育となるよう、この事業推進に取り組んでいるところでございます。

まあ、反対の意見を示す人々が地域内に存在するということは事実かもしれませんが、施設一体型の小中一貫校建設の要望というのは、先ほど申しましたように3地区の自治組織で機関決定等の手続を踏まれた上で、市に出された地区としての要望というふうに、というのがスタートでございますので、その認識については変わりはありません。以上です。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 私が言っているのは、地元任せっ放しじゃだめですよということを言ってるんです。いいですか、嫌がらせがあるという市民の声があるならば、教育委員会が中に入ってしっかりと聞きなさい。地元の意見をまず受けとめて、それは教育委員会は教育委員会でいい学校をつくりましょうということができると思ってます。

で、その教育委員会の言葉を地元の人々に話して、賛成、反対というのではなくて、みんなが思ってるいい学校像が少しずつ違ってるだけなのかもしれません。そこにある深いところは何なのかというのをしっかりと見つめて協議をする。いい学校づくりとはそういうものではないんですか。杷木のときにも市長は言われた。建物じゃないんだと。本当に中に入ってくる人たちが、地域の人たちが本当に愛する、そして秋月は特に、後で申しますけれども、すばらしい教育という歴史と伝統があるところだと。それが朝倉市全部に広がったと私は思ってますので、教育委員会の立場でもっと中に入ってやるべきではないか、

そういうことをお尋ねしています。

○議長（浅尾静二君） 教育部長。

○教育部長（秋穂修實君） 何かやってないような今御発言でしたけど、決してそんなことはございません。

まず、現在の建設協議会の事務局として当然ながら建設協議会で出た意見、要望等については、もう即時に実現化しております、そういう説明会についてもそういうことでやってるわけですね。それから、当時のもう今は解散してありますけど、最初の母体であります推進協議会、この方々に、こちらからわざわざお願いしましてですね、出席いただいて、そして建設協議会の立場ではない形で推進協議会と当時のことが知りたいという保護者の方たちのためにそういう場も設定しておりますので、私ども全然無視してるわけではございませんし、意見をいただければそれはすぐ反映できるような形で進めていると思っております。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） では、このはがきにある嫌がらせがあるということについての教育委員会としての見解はどう捉えていらっしゃるでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 教育部長。

○教育部長（秋穂修實君） ですから今、先ほどそういうふうな嫌がらせがあるという意見をですね、そのアンケートを今言われたことで、まあわかったわけですけど、私どもの中では当然学校の教職員、それから地域の各種選出された代表の方、建設協議会の方ですね、そういうお話があるというのは、こちら側では聞いておりません。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） いじめの問題が学校で生じたときに教育委員会がどういう立場をとるのか。今までのやり方があるからそれでいいんだではなくて、もう一度ちゃんとその原因を追究していくというのが普通の教育委員会のあり方ではないかと思っています。その学校で持っているノウハウを地元の中に活用したらどうですかという提案をしてるんです。いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 教育課長。

○教育課長（高良恵一君） そういう視点は大事だというふうに思っております。

先ほどのアンケートの関係については、この秋月中学校区についてはですね、世帯数で言えば1,260ぐらい世帯があると、これは議員御存じだと思います。そのうちの見直しが必要ということで、288件ですね、ありますと、これを全体で言うと大体約2割の方の数値になってくるわけでございます。ということは、あと8割の方がどう思っているかというのはちょっといろいろあるかなということが1点あります。

先ほどの嫌がらせという話につきましては、実は説明会をする中では、ちょっとこういう意見もあるんです。反対の方がいらっしゃるので賛成の意見が言いづらいということが、

我々が説明会した後にとったアンケートの中にはあります。だから、いずれにしても、そういう意見が言いつらい形はやっぱ好ましくないと思っておりますので、説明会の仕方をですね、いろいろ工夫する必要があるのかなというふうに思ってます、これからそういうことで御理解をいただけるように、教育委員会としては新年度になっても取り組んでいくということでございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 12月議会で少数意見を大事にしてくれという話はしました。改めてもう一遍言いますが、平成23年の6月議会で福岡県からの定額譲渡について、朝農跡地の件ですけれども、賛成多数で承認しております。その前に23年の3月議会、この予算委員会で修正案を出しております。それは私が建設経済の常任担当委員長でありましたけれども、その中の委員のメンバーが、いや、これはおかしいと。なぜか。私たちが視察に行ったときに県との交渉についてということの検討を委員会でもたまとめて、それを要望書として市に渡しました。しかし、そのとおりに行ってないんじゃないか。まだまだ検討する余地があつてるのに県有地を購入するのはちょっと時期尚早ではないかという意見がありましたので、その修正動議を出しました。私は賛成意見を申しましたが、賛成——修正動議は少数で、要するにだめでした。否決されましたけれども、あのときにもし朝倉市が福岡県に議会でこういう動きがあつてるんだけどいい話はないのかと言ったとき、聞かれたら、添田町が交渉していた田川商業高等学校のことがわかつたんじゃないか、私はそう思ってます。田川商業高校をどうしたか、めんたいの会社の企業誘致に成功してます。が、しかし、前県有地を減額譲渡で添田町は購入してる。そして、それを企業誘致に成功したところだけの差額を県にまた戻してる、支払いしてる。そういうことがあります。

何を言いたいのか、少数意見にこそ大きな事業の成功のヒントはある。私は甘木青年会議所でずっと学んできました。新しい学校づくりをしてるんです。その中に賛成意見、反対意見ではなくて、いい学校とはどんなものか。そのそれぞれの市民の声を保護者の声を足し算していくことが何でできないのかというのをですね、このはがきの——20通のはがきの中で教育委員会はわかっていたいただきたい。嫌がらせがあるという言葉は決していいことではない。学校ができてこれ残ります。今のうちにしっかりとやらなくちゃいけないんじゃないかなと思うのですが、今までのやり方でないやり方が必要ではないかなと思ってますが、いかがですか。

○議長（浅尾静二君） 教育部長。

○教育部長（秋穂修實君） 少数の意見を大事にしないとかないうふうに私申しております。

それから、いつも建設協議会の中では言ってますのがですね、それから説明会の中でも。御理解いただけない方というのは当然一定割合の方いらっしゃるんで、教育委員会としては理解を求める、今後とも丁寧な説明はしていくと言っておりますので、議員がおっしゃ

るようなことについても御意見として参考としてさせていただきます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 私自身これからもしっかり見てまいりますので、いい学校、秋月ならではの学校、そして朝倉市の本当に礎となるような、朝倉教育の模範となるような学校づくりをお願いしたいと思っております。

で、これから当初予算が今議会で提案されておりますけれども、教育委員会としてはどのように取り組んでいく計画がございましょうか。

○議長（浅尾静二君） 教育部長。

○教育部長（秋穂修實君） 当初予算に示させられたとおり、予定どおり進めさせていただきます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 予定どおりということは、市民の声をどう反映していくのかというのを明確に答えていただきたいと思えます。

○議長（浅尾静二君） 教育課長。

○教育課長（高良恵一君） まず、もう議員が御存じと思いますが、そもそもこの今回の秋月小中一貫校の設立につきましては、3地区の今で言うコミュニティ協議会で長年議論されてあって、その3地区の地元要望という形で始まったのがスタートでございますので、それはまさしく地元市民の声であるという基本的なスタンスに立っております。しかしながら反対をされてある方いらっしゃいますので、そういう方々に対して丁寧な説明して御理解を求めていくということは変わりませんし、それに基づいた新年度予算を計上させていただいて進めさせていただきたいということでございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 何遍も言いますが、嫌がらせがあるということを書いた人たちの勇気というのはですね、教育委員会しっかりわかっていたいただきたいと思ってます。学校のいじめの問題と私は変わらないような、そういう扱いですね、教育委員会ですから、そういうべきではないかと思っております。

その思いをもって、もう一つ大きな目線で教育委員会も考えていただきたいと思っておりますので言いますが、秋月稽古館と朝倉教育というブランドについて、藩校サミットにおいて黒田藩修猷館がされました、藩校サミットの講壇で演題となったのが金子堅太郎氏でありました。日露戦争の講和条約の締結でアメリカのルーズベルト大統領を口説き落とした方です。その方は、「何でか知らんばってんか、朝倉、秋月稽古館で勉強しちよるやんな」と福岡の方から言われました。6月議会、朝倉教育のブランド化について質問しました。答えは、地域の方がここの学校が一番が前提ということでした。あれからずっと私自身調べてきました。私は秋月にこそ朝倉教育の礎があると強く考える次第です。地域も大切ですが、朝倉ならではのという大きな目標がないと子どもたちも大きく育ちません。

また、オール朝倉市で取り組んでいる人口増政策においても教育は大きなポイントです。今、教育というブランド化、教育でのまちおこしをどう考えていますか。

○議長（浅尾静二君） 教育部長。

○教育部長（秋穂修實君） 朝倉市におけます教育財産や教育資源というのはたくさんあると思います。その中の1つにこの藩校時代に藩士から庶民までが学問を受けることができました、教育機関である秋月藩の藩校稽古館というのが挙げられると思います。ここでは藩が招致した有名な学者たちのもとで学ぶことができ、その教育水準は高いものだったと言えると思います。

また、稽古館の教えの中では、礼節を重んじ文武両道に励むということが大切にされており、学ぶ姿勢やしつけの教育、師弟関係のあり方、人としての生き方というのを問うものなど、現代教育の理念にもつながる教えが大切にされていました。もちろん朝倉市の掲げる教育理念とも重なるところがたくさんございます。この稽古館の教えは、本市の貴重な教育財産としてこれからも大切に継承していかなければならないというふうに考えております。朝倉市が目指す教育理念にもその教えのよさを十分に生かしながら、朝倉市の教育活動を創造できればよいというふうに考えております。以上です。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） ちょっとわかりづらかったんですが、また別の目線からお尋ねしますけど、秋月義務教育学校で地域が割れている現状を今申しました。義務教育学校を現行の計画に賛成してある人たちは、「ただ、秋月に学校が残ればいい」だけなのでしょうか。反対の方は、「ただ城跡の中学校が残ればいい」だけなのでしょうか。どうでしょうか、違うでしょうか。金子堅太郎氏だけではなくて、「我が胸の燃ゆる思いにくらぶれば煙はうすし桜島山」で有名な平野国臣氏も秋月に来ております。西郷隆盛、月照上人が朝倉に訪れたのもその御縁ではないかと思えます。

朝倉の偉人を生んだ大地は今子どもたちに何を伝えてくれるのでしょうか。自然と歴史はもちろんです。昔は藩校がなくっても寺小屋教育がこの朝倉では非常に盛んでした。また、三奈木と杷木志波には郷校文武館があり、相乗効果を生んでいたのではないのでしょうか。秋月稽古館、秋月教育の意味は大きいと認識しています。そこに誇れる朝倉教育はないのでしょうか。今の秋月中学校はお茶を摘んだり、梅をちぎったりして、そしてそれを商品にしたりする。もちろん稽古館の教えの素読等もあっていることでしょうか。インプットの教育だけではなくてアウトプットの実践教育が人を育てています。誇りが醸成されているのではないかと考えています。このことは重要ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 教育部長。

○教育部長（秋穂修實君） 今回の秋月小中一貫校につきましては、当然ながらあそこの稽古館の教えというのを生かした地域性のある高い学校づくりを目指しております。

一般的に朝倉教育のブランド化のためには、議員がおっしゃるようなことももちろん大切ですが、学校と保護者、地域のそれぞれが学校への愛着や関心、信頼、そして誇りや満足感といった価値を、お互いが共有し合うことで、お互いがこう自慢できる学校です、ができるということが大事だと考えています。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 今部長が言われた言葉そのものがどうも壊れかけてるのではないかなと危惧しています。いい学校をつくるというのはですね、そのそこにある地域が持つてくる宝をいかに子どもの教育に使うかというのが大事だと思っています。

もう一つは、今の新しい教育情報、この議場でもありましたが、そういうタブレット等を使うとかそういうことも可能かもしれません。が、しかし、何ができるのか、この地域ならではののこののをしっかりと見つけることが教育の大事なことではないかなと思っています。市民の声を、そして保護者の声を聞いて、本当に朝倉で大事なものは何なのか、教育で大事なものは何なのか、その大切なものをぜひなくさないように、閉ざさないように、皆さんの知恵の出し合いをできる場を教育委員会はぜひお願いしたいと思っております。

その意味でも、もう一つ、グローバル化の中でどんな教育をするか、人口増政策の中でどんな教育が人を集めることができるか、大切なことです。もう一度確認し、羽ばたくために、コンサルタント任せではなくて、職員がチームを組んでしっかりやらなければいけないのではないのでしょうか。地元で難しい話になってますが、国から見たら、その難しい話のところ大切なことを協議してるんだとわかるのかもしれない。国の地方創生、東京都内にある大学の地方移転を促進する地方創生というのがあります。これに挑戦してみたいかですか。またほかに教育でのまちおこしの考え方は、朝倉市はないのでしょうか。お尋ねします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 国の動きの中で、東京首都圏にあります大学を地方にという動きがあることは承知しております。それを即朝倉市にということになるかどうかということにつきましては、今私どもが直接朝倉市に関係があるかどうかということ、議論の途中の中ではよくわからないということでございます。今現時点でその国の動きにつきまして結論が出たというふうにはまだ把握しておりませんので、国のそういう大学を地方へという動きの考え方というものの情報をつかんでいくというようなことになろうかというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 教育というのは、まちおこしの大事な1つであります。ぜひ市民の皆様のご意見でいい学校ができることを、それをぜひ教育委員会の本当に持っているノウハウでよろしくお願ひしたいと思っております。

次に移りますが、今、総務部長、創生事業について簡単にお話しされましたが、チャレ

ンジの講演会に行ってまいりました。沖縄から民間の方が日帰りでこの講演会に出席されてました。それだけほかのまちは熱いんです。頑張らないかんのは今です。

財政と事業政策について先ほど申しましたが、アンケートの調査結果、庁舎・総合体育施設等建設事業について建設計画を「見直すべきだ」1,049通、77.02%、「今のまま進める」142通、10.43%、「わからない」131通、9.62%、無回答が40通でした。体育施設の延期は2月17日の全員協議会で発表されましたが、市民アンケートからの結果に対しまして、市民へメッセージをお願いしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 庁舎、それから朝農の総合体育施設につきましては、大変重要な案件だというふうに認識しておるところでございます。確かにアンケートにお答えした方々につきましては、自分のお考えを述べられたということで、そういう考えがあるということは受けとめる必要があると思っております。ただ、物事を決めるときには、できるだけ多くの情報を提供して、そしてその情報をもとに御自分の意見を言う、そういう場が必要ではなかろうかと。ですから、そういう場といたしまして、私どもは庁舎につきましては市民会議、それから議会の特別委員会、そういったものを活用いたしまして、たくさんの情報と、できる限りの情報と、そして議論というものを積み重ねてきたものでございます。もちろんさまざまな御意見をいただきました。

で、アンケートをしていただいた方々につきましては、私どもといたしましては、多くの情報を取り入れて、そして議員なり、それからさまざまなところに御意見を発していただきたいというふうに思っております。少ない情報の中で物事を判断するというようなことにはないようにしていただきたいというふうには思っているところでございます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 多くの情報ということは、後で私もですね、疑問に思っていることがありますのでお尋ねさせていただきたいと思っております。

市民の声、意見でございますが、大型事業の前にはすることがあるのではないかなど。箱物は要らないよという意見が多数ありました。財政が赤字となる理由を詳細にわかりやすく示していただきたいなど。理解すれば今後がわかるのではないのでしょうか。赤字の原因についてお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 赤字ということをおっしゃっておりますけれども、財政の見通しの中での試算の数値、マイナスとなっている数値のことをおっしゃってあると思えますけれども、それが赤字と言えるかどうかというのは、私どもは赤字というふうには考えておりませんで、そういうデータ上の数値だということでございます。

その2月17日、これは議会の全員協議会ですけれども、朝倉市財政の見通しで試算表を報告し説明をいたしましたところでございます。財政の見通しにつきましては、財政計画とは

異なります。このままいったらどうなるかといったもの、どういう傾向にあるかを推計をしたものでございます。行政としてこのようにならないように改善とか、改革を図っていくという資料となるものでございます。

で、そこで単年度収支が財源不足というような数値でございますけれども、実際の予算編成とは異なるものでございます。実際の予算編成では事業の取捨選択、事業実施のタイミングの調整、計画上の実際の事業費を査定するといったこと、それから非効率なものを省くといったこと、そういったものを行うものでございます。事業の執行段階では、国の補助金のつきぐあいでは実際には事業量を減らすということもありますし、入札減等も出てまいるものでございます。そういうものでございますので、財政の見通しで見込んでいた決算額と実際の決算額とを比較すると、実際にはあの見通しどおりになるかということではないということでございます。

具体的に算入できない今後の行財政改革とか事業の見直しとか経費節減などにつきましては、試算には入っておりませんので、あくまでも確一的な試算で数値化できるもののみ試算したものであると、そういった財政の見通しというものを理解しなければならないというふうに私たちは思っております。きっちりと推計をしております。与えられた条件のもとではございますけれども、必ずしもこのようになるものではない試算であるということ、この点につきましては作成当初から話をさせていただいたものでございますので、そういう財政の見通しの性格だと、性格のものであるということをお理解をよろしく願いたいというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 財政の見通しをつくること自体が大変厳しいことである、また、大変難しいことであるということは十分に認識しております。しかし、市民の皆さんはですね、やっぱり不安というのがあります。先ほども申しましたが、公共施設等の総合管理計画について、12月議会での答弁では、各課に指示をしているところであると。現在までの政策調整会議、市のトップの会議であります。そこではどんな協議内容が話されているのかを教えてください。補修はどんどんふえていきます。はがきでの市民の意見では、「先行きが不安です。税金を大事に使ってください」「何年も先を見て、10年、20年、いや、100年先を見て財政とまちづくり政策を考えてくださいね」と。「コミュニティなどの施設が古くて、また、避難所としても大丈夫ですか」と。公共施設等総合管理計画と関連することでもあります。先ほど言いました調整会議での協議内容をお知らせいただきたいと思っております。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 最新の政策調整会議の状況をおつなぎしたいと思います。

この公共施設等総合管理計画につきましては、副市長をトップに据えまして、教育長、全部長を集めました総合管理計画推進会議というものを開催いたしました。これは平成28

年の8月に会議を開きまして、今後40年間に係る更新費用の考え方、国も個別計画に係る指導・支援を行っていくことになっているということでございますので、基本的な計画はできたが、個別計画を実際に策定をお願いしたいというような各部への周知、それから、国県の動きを注視していくことが大事だという指示、協議を行っております。

特に課題といたしましては、各施設の更新、大規模改修とか建てかえとかがありますけれども、こういった更新時期につきまして、所管課がきちんと把握し、計画的に平準化を図っていくことが大事だというような周知を行っております。当然財政見通しにも影響を及ぼすということになってまいりますので、この平準化の考え方が大変重要だという協議をしてまいりました。

また、各部署が所管する公共施設等については、長寿命化を図っていくために計画的な維持管理、例年行っていることも含めて計画的に予防、保全を行っていくよう徹底していく会議という位置づけをして協議を行ってまいりました。以上です。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 政策調整会議という中でいかに全体的な問題として取り上げてくるのかなというのを聞いたかったんですが、別の質問からもさせていただきたいと思っています。

少子高齢化社会を迎えての福祉費について、9月議会でも質問しました。平成27年度決算で財政見通しより扶助費が2.9%増加している、その分の分析の答えはありませんでした。別の視点からも市民の皆様への資料として渡しています。

国勢調査では5年間で16歳から64歳までの現役世代が13.5%減り、65歳以上の高齢者人口は6.7%、朝倉市は増加しています。財政と福祉政策について先ほどの重松議員の質問にもありましたが、非常に重要であります。政策調整会議では、この関連についてどのように協議されておりますでしょうか。年金で暮らしている高齢者の方、生活弱者の方が一生懸命頑張ってもらっています。公共交通の不便さ、介護保険、健康保険、税金の支払いが大きいですよ。介護の体制整備など、また、老人、母子家庭などの生活弱者への対策としての課題があるのではないかなと思っています。財政見通しがほぼ横ばいでの計画となっておりますが、いかが協議されておりますでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 福祉費と言いますと社会保障費のことだろうと思っておりますけれども、財政見通しを政策調整会議のところで確認した場において、福祉費とか、そのほかにつきまして特別に議論したものではありません。ただし、見通しをつくるまでにつきましては、そういった社会保障の面とか、それから税収がどうなるかとか、全ての情報を取り入れた見通しとなっているところでございます。以上です。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） また別の観点から申しておきます。庁舎、体育施設の前にもっと

することがあるはずだという意見が多うございました。人口減少を阻止、若い世代が子どもを産み育てられるようにということで多かったのが雇用を生み出す企業誘致ということでありました。重松議員のことで担当課だけのお話がありましたが、これをいかに取り組んでいるのかなと、同じく政策調整会議ではどのような議論がされているのでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 政策調整会議というものの内容についてであります。富田議員が理解している政策調整会議と私どもがやっている政策調整会議、多少ですね、考え方がちよっと違ってるといふふうに思います。

具体的に政策調整会議というのは部長以上です。その中で話すことについては市全体の話です。今言われた各部のことについては、まず各部でそれぞれやります。それで中であっているような問題、もちろん各部門で話すこともありますけど、まず基本ですから。何もかも全てのことを政策調整会議で話すということじゃないということは御認識をいただいた上での御質問をお願いしたいというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 私はですね、この質問で問いたかったことは何かと、組織がちゃんと機能してるのかなと。市長1人に責任を持たしてばかりじゃないかなというのを危惧してるから、今政策調整会議というのを言いました。主権者は誰なのでしょう。しっかりと意識することが必要です。そして、その上にある組織をしっかりと考えていくことが大事ではないですか。全てが市長任せになっているというふうに感じられます。執行部は会議で十分な議論があっているのか。政策調整会議は市の全体像をつくるトップの会議です。財政問題というのは全てのところにあります。財政担当課だけの話ではない。財政課の苦勞は十分知っていますが、それをみんなが共有することが大事ではないかなと思ってます。

また、議会と執行部の関係はどうなのか。財政見通しの赤字、厳しさについては、議員だけではなくて多くの市民も心配しております。ただ、報告を受けるだけの議会でのいいのでしょうか。施策調整会議と同じく政策決定前に全員協議会などで数度知恵の出し合いをする場となるべきではないかなと思ってます。朝倉市市民の方々と、そして職員の方々と、そして私たち議員と知恵の出し合いをする場が本当に今欠けてるのではないかなと思って質問をしておりますが、いかがでしょう。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今ですね、ちょっと気になる発言、部長の皆さん方が全て市長に責任をとる話がありました。それは違います。最終的に私が責任を取ります。これは当然のことです。しかし、それぞれの部の部長さん方は、それぞれの部のことについては、きちっと仕事をしていただいておりますし、頑張ってもらってます。そして、政策調整会議と、もちろん具体的な話をすることもありますよ。しかし、基本的にはある一定の市と

しての方向性を話すところです。具体的なものについて一々そこでは話しませんので、そのことは御理解をいただきたいということを申し上げたわけでありまして。もちろん一番私も市民から選挙でですね、市長をやれということをおぼえてやってる市長ですから、そのことは十分認識をしております。しかし、そのかわり最終的には私が責任を持たなきゃならんということでもあります。だからといって部長の皆さん方が全部市長にのしかけてということじゃないということはおぼえて、御理解をいただかないと、部長も一生懸命頑張ってるのでそういう認識でしか議員の皆さん方が持ってないということになると彼らも心外であろうと思いますので、私からそのことは申させていただきますというふうに思います。

それと、あと一個なんやっただですかね、（発言する者あり）財政問題について議員と一緒に、それは財政の見通しというのを出しています。さっき財政の見通しというのはどういうものかということをおぼえて今総務部長から話があったとおぼえて。いわゆるある一定の状況の中で10年後を見通すわけですね。そしてどうなるかと。しかし、これについて言いますと、じゃあそのとおぼえて必ずなるかと言えばそうじゃないんです。例えば、御存じですが、昨年出した財政の見通しの中で平成28年どうなったか覚えてらっしゃいますか。この年は赤字です、単年度。1億7,000万円程度の赤字という見越しをしておりました。しかし、まだ最終的に決算終わってませんが、今の見込みではですね、6億円ほどの黒字になります。

これはなぜかと言うと、その理由については総務部長が話したとおぼえて。先ほどいろいろ変わるという事情でと、そういうこと。ですからそういう形です。しかし、これは将来的にやはり私どもとしてはうかつにやりよるとこういう形になるよという1つの、まあ私どもにとって判断材料といいますか、こういうふうにならんようにしようというものでもあるわけですね。ですから、先ほど言いましたように財政計画とは違うということはおぼえて申し上げました。それはそういうことなんです。

ですから、議員の皆さん方がお前どんが出しとる見込みじゃこげんなつちよるじゃねえかと、そのことを大上段に振りかぶって言われますと私どもとしては、そりゃちょっと違うなと言いながらもですね、私どもが出しとることですからそれは言えないです。

それと議会との議論ですけれども、私どもは毎年、見込みを出しています。で、恐らく私が経験した中では、こういった財政の見込みを出す議会というのはですね、ほかにはほとんどないだろうと思います。それだけ朝倉市議会というのはですね、やっぱ進んだらんと、関心やなと思つとるわけですけれども。少なくとも私は県会議員長うしましたけれども、県の財政課がですね、県の財政の見込み、10年後の見込みなんか出したことはございませぬ。ですから、朝倉市議会というのは大したもんやと思いながらですね、見ておるわけですね。ありますけれども、そこで出して議論をしていたら、議論ちゅうか、それに対して意見を出していただく、それについて私どもはですね、真摯に参考として受け取ってやらさせていただきます。それ以上の議論になってきますとそれは議会の内部で、議会の中でやっ

ただくということになるんじゃないかなというふうに思います。ですから、まあ、それとこの本会議ですね。そういうことですので、そういったふうに御理解をお願いしたいなというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 市長のお考えも一理あるかと思っています。が、しかし、私のですね、考えるところも市民が支持するところではあります。期待してるところでもあります。市民の声を、知恵の出し合う場をぜひつくっていただきたいというのが、このはがきの中でも書いてます。まず執行部から、そして議会と執行部の間、そして市民とするのが一番だと思っています。

時間がなくなりましたので、もっといっぱいあるんですが、一番大事なことだと思っ
ます、国の動き。先ほどから言っています地方創生チャレンジミーティングに出席しまし
た。繰り返しますが、山本担当大臣は、「地方創生は地方の平均所得を上げること」と提
議されて、「稼ぐ取り組みが重要」とのことでした。今、国は情報面、人材面、財政面で
強力に支援していると。後から我がまちは何もなかったと言われても知らない。そこで、
出光佐三さんの言葉が出てくるわけです。「愚痴はこぼすな、ただいまこれから再建に立
ち上がれ」。これは、終戦後2日、8月17日に社員に向かって言われた言葉です。価値観
が大きく変わってくる中でも、いやいや、今が頑張り時なんだということが言われてます。
そのとき大臣の言葉からうきは市の言葉がありました。うきは市は、自分たちで創生プロ
グラムをつくっていると。このことについてどう評価してありますか。また、朝倉市とし
てはどう考えようとしてますか、お尋ねします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） うきは市の取り組みにつきましては、議員がおっしゃったと
おりでございます。大変すばらしい取り組みをしてあるなというふうに思っております。
以上です。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 隣町が頑張っています。市長は、組織は今ままでいいというこ
とを言われましたけど、これは何か変わらないかんでしょう。国が応援してると言ってる
中で大臣の口から隣町の声が出てきた。なら私たち朝倉市はどうするべきか。市の幹部と
して、しっかりと取り組みについてもう一度見直すべきではないかなと。今しかないと私
は強く思っています。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 山本大臣の話が出ましたのでね、私はここで話しするつもりな
かったんですけども、あえて言わせていただきます。実は私は山本大臣、昔からよく存じて
おりました。この前もですね、実はあの、あれは、交付金何やったけな。（発言する者あ
り）拠点整備交付金、朝倉農業高校跡地に今度は新規就農者のための施設をつくると。こ

れも交付金なので、非常にまあ、情報でちょっときついかもしれんという話があったんで直接山本大臣に会ってお話をしました。ちょうど国会中、予算委員会の途中でですね、昼休みの10分か15分でした。この話を説明しますとね、大臣は非常に喜んでくれました。そげなことやったらぜひどうかしましよと言っていたいただきました。それで満額ついたという経緯がございました。ですから、まあまたまうきは市はいい取り組みをして、それが表に出たということであってですね、それぞれの自治体はそれぞれの自治体でみんな努力してるんです。まあ、隣の芝生は青く見えるということもあるかもしれませんが、まあそういうことですので、私どもは私どもとしてしっかり努力をさせていただきたいと。頑張らせていただきたいというふうに思ってます。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 頑張る——頑張ること、行政改革をすること、それは立派なことです。当たり前のことですが、市民が知りたいのは、もっと具体的に私たちのまちはどういう行程表を歩んでいるのかと、どういう、どんな山を登って今私たちは何合目まで行っているのかと、今から先、急な坂があるかもしれん、でも歯を食いしばったら頂上が見えるんだと、そういうことをですね、具体的に示していただきたいとがここであると思ってます。

うきは市の職員の皆さんは、それぞれの職員の皆さんがある程度の権限を持っています。朝倉市と違うのはそこではないかなと思ってます。前もお話しましたが、係長であっても、間違いでなければちゃんとある程度の裁量権は持たしてもらってる。朝倉市は名義後援をするにしても、部長にそれほどの裁量権がなかったのを実感してます。このことが組織の活性化に大きく係わってきてる。政策調整会議がそういう場でないならば、本当に政策を協議する場を執行部がつくってやっていくべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 行政課題につきましては、大変多くの分野がございます。それぞれの重要決定につきまして組織的に決定をするということが大事だろうと思っております。一定の専決の金額の部分とかありますけれども、そういう組織を動かす上の仕組みのもとで適正に物事を決定していきたいというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 見直しが必要だと私は言ってます。市民のアンケートの中で、たくさんあるんですが、もう時間がないので、庁舎の件について。「庁舎は朝農跡地がよい」という方が41人いらっしゃいました。「市民の声を反映してくれ、場所の見直しを」、反映されてないという方が21人いらっしゃいました。現在のこの場所、「甘木公園周辺」が23人、「朝倉支所」16人、その他もろもろという形であります。これは何を意味してるのか、知らないんじゃないかなと。市民の皆さんまだまだ知らないんじゃないかなと。

もう一つ、9月議会一般質問で場所選定の利点についてをお尋ねしました。道路、その

場所決定の利点について、執行部の考えは、「道路、インターチェンジ、駅までの距離など、アクセス面について住民の利便性が高い。周辺地域やまちの活性化に寄与することができる」ということを利点として挙げてます。しかし、はがきの意見では、「交通インフラの整備、最優先ではないかと。交通弱者対策が必要ですよ」7通。「駐車場が今でも満杯。車の渋滞解消ではなく、さらに渋滞が心配である」10通。「狭くて周辺への発展性がない」3通。さらには、「財政計画が、財政が近い将来緊迫が予想されている中、中止してもらいたい」と、そういう意見までも出てまいりました。このことはできるだけ多くの情報を流して、そしてそれを市民に——皆さんに判断してもらおうといった総務部長の先ほどの言葉であります、これと反してることだと思いますが、いかがですか。時間ありません、一言をお願いします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 先ほど言いましたように、市民会議、議会等の方々に、皆さんにできる限りの情報をお与えいたしまして、判断材料を示した上でからこれまで決め事を決めてまいったわけでございます。それを踏まえて現状がございます。以上です。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員。

○12番（富田栄一君） 多くの意見をいただきながら、時間がなくなってまいりました。はがきでわかったこと、執行部と議会、議会と市民の皆さんの大きな意見の相違があったこと、本当に強く自分自身も反省して、このアンケートができ上がったものだと思います。きょうはどうもありがとうございました。以上で終わります。

○議長（浅尾静二君） 12番富田栄一議員の質問は終わりました。

本日の一般質問順位の3番目、11番大庭きみ子議員から一般質問の辞退の申し出がっておりますので、申し合わせにより、この間70分間休憩いたします。

午後2時10分まで休憩します。

午前11時27分休憩